



今、大町商店街に注目

リポーター 樋口昌子 (東台1丁目)

これらの上手な利用法や商店街の振興策について伺いました。
ハチ公スタンプは、加盟店で買い上げた金額の百円につき一枚もらえます。これを三百枚(台紙一冊分)集めると、加盟店で五百円の金券として使えるほか、指定金融機関に預金することもできるそうです。スタンプを金

今回は、樋口リポーターが消費者の心をとらえようと新たな顔づくりを進めている大町商店街の振興策について、佐々木リポーターが日本赤十字社の活動とその資金などの状況について取材しましたので、お二人のリポートをご紹介します。

商店街、そこは明るく華やか、人情味がいっぱい……。さまざまな表情をもつ「マチの顔」です。最近、大町商店街は、「ハチ公スタンプ」「ハチ公プラザ」といった事業で、新たな顔づくりを進めています。今回は、大町商店街振興組合副理事長の泉大和さん、スタンプの企画宣伝担当の殿村直人さん、プラザの運営担当の明石安典さんに、それぞれの上手な利用法や商店街の振興策について伺いました。
ハチ公スタンプは、加盟店で買い上げた金額の百円につき一枚もらえます。これを三百枚(台紙一冊分)集めると、加盟店で五百円の金券として使えるほか、指定金融機関に預金することもできるそうです。スタンプを金



左が樋口リポーター (ハチ公プラザで)

券として買い物に使用した場合、更にスタンプがもらえるので、預金するよりもちよつぱり得になります。そのほかに、毎月行われるイベントに参加することができ、十月には温泉旅行(湯瀬ホテル一泊二日)招待、十二月には年末ジャンボ宝くじとの交換会などが予定されています。また、規定よりスタンプが多くもらえる「特倍の日」もありますので、たくさん集めて楽しく使ってほしいとのことでした。

憩いのスペース「ハチ公プラザ」は、照明も明るく、白い壁が清潔さを感じさせてくれます。

日赤は、日本赤十字法という法律に基づいて設けられた特殊法人で、赤十字活動の趣旨を

月曜日を除いた午前十一時から午後六時まで開いていて、買い物に無料でゆつくりと休憩することが出来ます。また、プラザは展示会や上映会、会議など、多目的のホールとしても利用できるそうです。使用料は、火曜日から日曜日までの六日間で、カルチャータンなどの千円、物品販売の場合でも一万円と手ごろです。

前にも述べましたように社費と寄付金を総称して社資といっています。市の場合、社費については、矢立地区と花岡地区は婦人会が日赤奉仕団となつていて、婦人会が中心となつて集めてもらっています。その他の地区は、日赤協賛員または町内会の協力などによって集めてもらっています。三年度の社費は目標額の七七%、七百六万九千円集まり、県支部に全額納入されています。なお、県支部では事業の一環として水上安全法(難救助)、救急法、家庭看護法等の講習会を開催しています。問い合わせや受講申し込みは、市総合福祉センター内の社会福祉協議議会(☎42-8101)へしてください。

「人道と博愛」を旗印に、災害時の救護などいろいろな活躍している日本赤十字社。今回は、日赤の活動とその資金などについて、日赤秋田県支部大館市地区の窓口となっている市社会福祉協議会事務局長の木村弘さんと係の小野浩さんに伺いました。

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。

みんなで支えよう赤十字

リポーター 佐々木紀子 (本郷上)

「人道と博愛」を旗印に、災害時の救護などいろいろな活躍している日本赤十字社。今回は、日赤の活動とその資金などについて、日赤秋田県支部大館市地区の窓口となっている市社会福祉協議会事務局長の木村弘さんと係の小野浩さんに伺いました。



右が佐々木リポーター (総合福祉センターで)